

# 地歴公民科

主任 丸田 博臣

## (1) 今年度の目標

- ① 社会事象に関心を持ち、自ら学び、考え、社会をよりよくしていこうとする人間を育成する。
- ② 文章を書く力、論述する力を育成する。
- ③ 「読書人」を育成する。

## (2) 主な取り組みの計画

- ① 教材のさらなる精選に努め、授業用プリントなどを工夫する。
- ② 定期試験の論述問題の出題を工夫するとともに、適宜、生徒にレポート提出を求める。
- ③ 授業などを通じて、生徒に書籍を紹介し読書をすすめる。1・2年生には夏休みに「岩波ジュニア新書の25冊」を紹介する。

## (3) 授業アンケートの結果と分析

### ① 日本史

アンケート結果からほとんどの生徒が「授業内容に興味・関心を持っている」ことが分かり、授業プリントや進度についても特に問題はない。理解度をより一層高めるために今後も引き続き授業内容の精選と時代の特徴を明確化していくことが必要である。また、一部の生徒では評価の仕方について改善を望む意見があった。

### ② 世界史

2年と3年の間で有意な差はなく、9割以上の生徒が「授業が分かりやすい」と感じていた。昨年は「より深い知識を学ぼうと思うようになった」生徒が50%ほどであったが、今年は65%程度に増加した。プリントの工夫や小テスト実施が影響したかもしれない。一方、「授業の進度」については文系では2%が遅いと感じているのに対して、理系では（選択者は少ないが）15%が遅いと感じていた。時間の少ない理系ではプリントの工夫がより一層求められると感じた。

### ③ 地理

「授業の説明はわかりやすい」、「授業で何を学ぶべきか課題が分かる」と答えた生徒が約9割であり、学習に対する理解や興味・関心の高い者が多い。一方で、定期テスト、校内模試、校外模試等で事業内容の定着があやしい生徒もみられる。週末課題等の提出も未提出の生徒が固定化されつつある。授業に集中することだけでなく、自学の時間を確保する必要性を強調していかなければならない。

### ④ 倫理

一様に興味・関心を持って学習に取り組んでおり理解も深まっているようだ。学習内容に強い関心を持つ生徒もおり、思想と社会とのつながりを意識できるようになっている。ただ、講義中心になるため、授業に対して受動的な姿勢の者は緊張感を維持しにくくなる傾向にある。生徒の活動をより増やす工夫が必要だと感じた。

### ⑤ 政治・経済

その週のはじめの授業で、その前の1週間の出来事をネタにした「世の中まとめて1週間」という時事問題を扱う授業は生徒が社会に興味関心を抱くきっかけになったようだ。「政治・経済」を受験科目としている者は、「授業の進度」を遅く感じているが、実際に遅い。

## (4) 今年度の成果と課題

### ① 「日本史」

新課程となり、学習する分量が増えている。この点を担当者が意識して、生徒の自主的な学習も喚起

するための工夫をしたり、三年生については受験を意識させるような小テストを実施し、定着化を図ることができた。しかし、従来のように視聴覚教材を用いる方法は時間的に厳しくなっている。また、各教員の専門領域を中心に、できるだけ生徒が興味を持てる書籍や最新の研究成果も紹介した。

#### ②「世界史」

視聴覚教材の活用や書籍の紹介などにより、興味関心を引くことはできているので、自発性を育むような工夫を検討する。どうしても遠い世界の出来事という認識があるので、どれだけ世界史が身近なことに関わっているかを伝えることがポイントとなるだろう。

#### ③「地理」

文系と理系で授業時間が異なるため、それぞれの学習内容の精選が課題となる。理系はセンター対策に寄りがちであるが、地理という科目に対するそもそもの興味を持たせるような授業を見直している。

(視聴覚教材、新聞、ニュースの紹介など)文系は興味を持って授業に取り組んでいる生徒が多いので、更に内容を深めて考えさせる項目を増やし、発表などの機会も設けていく。

#### ④「倫理」

抽象的な内容を取り扱うことから理解を深めるために具体例をあげながら進められた。定期考査で論述問題を設定することで各自の思考の深化を図ることができている。ただ進度は遅れがちで、センター試験で出題が増えている現代思想について触れておく必要もあり、今後の方策について検討する。また今後、思想家の言葉や抽象的な概念を理解するために国語力をより高める工夫も実施予定である。

#### ⑤「政治・経済」

社会事象に関心を持たせることはできたと思うが、「世の中」が抱える様々な問題について、自分はどうか考えるか、どうすれば解決するかなどについてじっくり考えさせる時間は取れなかった。週に2単位という制約の中で難しいが、簡単な討論やディベート、レポートの提出などをもっとさせたいところである。